常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和　４年　３月 24 日(木)

最終号

◇ 令和４年度に向けた準備は整った

令和４年初登校日の１月７日(金)。【3 学期は、次学年の０(ゼロ)学期】と子供たちに伝えて始まった３学期も、本日をもって修了。令和３年度の締め括りである。

今年度を振り返れば、どの学年も本当によく頑張り、特に３学期は、年度の締め括りに相応(ふさわ)しい次年度に繋がる逞しい姿を見ることができた。

短期間の３学期に一際(ひときわ)大きな成長を見せたのが５年生。卒業生が学校を巣立ち、最上級生となった 22 日(火)には、すでに「学校をけん引する原動（核）としての心構え」が伝わってくる動きが見て取れた。これは、彼らの意気込みに加え、この日に備えた事前の準備、卒業生による在学中の５年生への伝授・教授と、受け継ぐ５年生の伝承がそうさせるのだ。

先輩から後輩への児童間で行われる役割の伝授と継承。これは、受け継がれ続ける「本校の持ち味」とでも言ってよかろう。

コロナ禍に於いて披露する場がなく、やっと披露ができた卒業生に向けた後輩からの感謝演奏。５年生が担ったのは木琴や鉄琴、太鼓などの打楽器、シンバル、鍵盤ハーモニーといったリズムを支える重要な楽器だ。後輩の見事な演奏は、クラブ活動の時間の卒業生から個別指導によるところが大きい。卒業生は、演奏披露の機会がなくなった負の要素を、目標を転換することでプラスに変える。気持ちを切り替えることができたのは、先輩から授かった見えない力の受け渡しにほかならぬ。

朝の通学団登校も然(しか)り。
３月に入ると、全ての通学団が足並みを揃えるように、５年生が先頭に立つようになった。いわゆる来年度のための練習期間だが、中団や後尾で歩く立場から先頭に立って歩くのとでは、「歩く速さは大丈夫だろうか」とか、「全員ついてきているだろうか」など、気配りの面で大きな変化がある。だから経験が大事だ。
経験することによって、通学団班長としての覚悟という力に変わるのである。

１年生時から５年間、通学団で登校した５年生は、ある日突然、役割を任されるわけではない。３月になったら正副班長の役割を担い、練習期間があることも先輩たちの姿を見てきて心得ている。だから、１月や２月は６年生の動きや様子をしっかり窺(うかが)い、来るべき時に備えることもできる。それを行ってきたのが３学期。
自分で考え、自分で行動に移す。これら一連の経験が大事なのだ。

ほかにもある。
掲揚塔でなびく「国旗・市旗・校旗」の三旗の掲揚・降納は代表委員が担う役割。けれども５年生は気付いた者が行う。誰かがいち早く対応していれば、すぐに手伝う。皆が代表委員なのだ。
気づけば、３本のポールに皆が集まって対応する姿は、いつ見ても気持ちがよい。

これも先輩たちが行ってきた、他校では「あたりまえ」ではない、本校の「あたりまえの姿だ。５年生はきちんと受け継いでいる。そればかりか、すでに４年生まで伝播(でんぱ)している。
そして３年生も、２年生も、１年生も大きく成長した姿で締め括りの今日の日を迎えることができた。

【3 学期は、次の学年の０(ゼロ)学期】ではじまった３学期。
子供たちは、この３か月余りで【次の学年の 0.5 学期】、いや、６年生が卒業してからの３日間で【次の学年の 0.9 学期】と言えるほどまで仕上げてきた。

来年度に向けた準備は整った。
今日の節目を励みとし、令和４年度も、よいスタートを切ってくれるに違いない。

令和４年度の始業式、４月６日(水)が、今から楽しみでならない。